

幕末の桑名藩主 松平定敬

～謎多き一会桑政権の担い手～



(2) 京都動乱

西村 健二

はじめに

令和二年（二〇二〇）七月二十五日、桑名歴史案内人の会の主催で歴史講座『桑名藩幕末物語』の第二回「高須松平家と桑名松平家」を開催させていただくことができ、あわせてテキストとして『松平定敬 ～謎多き一会桑政権の担い手～ （二）京都動乱』を上梓することができた。ご協力いただいた関係者の皆様に改めて感謝を述べたい。

二月二十二日の第一回「黒船来航」は、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される中、なんとか開催することができた。百六名もの参加申込がある中、当日の雨天もあって参加者は八十六名に減少したが、アンケート結果は回答者六十八名のうち六十五名が「たいへん良かった」「良かった」を選択いただき、予想を大きく上回る高い評価を頂戴することができた。

第一巻の序文において「広範な史料から垣間見える定敬の姿を拾い集めてその歩みを明らかにし、波乱に満ちた（桑名藩主松平）定敬の人生を再構築」したい旨を述べたが、実際に取り組んでみると、定敬が登場する史料、文献は非常に多く、その作業は困難を極めた。率直な感想を述べれば、ほとんどの史料に定敬が登場していると感じてしまう程であり、あまりの史料の多さに私自身の能力と時間的余裕が追いつかなかった。そのような状況の中でなんとか第二巻が完成した。

第二巻では、冒頭に第一巻執筆後に見つけ出した事項を補章として紹介し、第五章以降では文久四年（一八六四）四月の京都所司代就任から七月に発生した禁門の変までを採り上げる。わずか四か月という短い期間にも関わらず、京都では池田屋事件、禁門の変といった血生臭い事件が連続して勃発した。このような動乱の京都において、歴史の表舞台に登場したばかりの定敬率いる桑名藩は手探りながらも必死に活路を見出していた。わずか十八歳の少年定敬が目当たりとした事件をあらゆる史料を用いて時系列で再現していく。

さいごに、膨大な史料から定敬の伝記をまとめるという終わりのない作業を続けるうち、私には希望も見えた。私個人の作業でさえこれほどに多くの史料から定敬の歩みを見出せるのであれば、定敬を中心とした桑名藩の幕末における動向に関する修史事業も不可能とは思えなくなったのである。本書を手にした方が定敬や桑名藩に関心を抱き、いつか桑名における修史事業を成し遂げてくれれば、この上ない喜びである。

末尾ながら本講座開催に協力いただいた社会福祉法人桑名市社会福祉協議会の皆様にも心より感謝申し上げたい。

令和二年（二〇二〇）七月二十五日

郷土史研究家 西村 健二



目次

はじめに

補章 第一巻補足 1

第一章補足 定敬の誕生 1 / 高須陣屋 1

第二章補足 京都警備の申し合わせ 3 / 桑名藩江戸上屋敷の拝領時期 3 / 定敬の養子縁組 4 / 万延元年における越後領での動き 5

第三章補足 捕縛水戸浪士の桑名通行 5 / 万延年間の桑名の様相 6 / 鹿島建設と桑名藩 7 / 木村家のあんぱん 8

第四章補足 定敬の出府、家茂の上洛 9 / 家茂、定敬の初参内 10 / 御親兵の派遣 11 / 江戸城の火災 11 / 続く定敬の参内 11 / 定敬の建白 12

第五章 京都所司代拝命 13

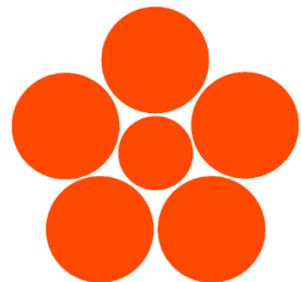
御所警備 13 / 京都所司代就任 13 / 京都所司代の職務 14 / 選任の背景 15 / 朝廷、京都市中への周知 16 / 京都所司代屋敷 16 / 京都所司代の引継ぎ 19 / 初仕事 22 / 将軍家茂の東帰 23 / 京都所司代の日常 25

第六章 池田屋事件 28

岡田以蔵の処分 28 / 新選組からの通報 28 / 池田屋事件 29 / 桑名藩の出動 30 / 池田屋事件の残党狩り 31 / 桑名藩の活躍と被害 32 / 事件後の動き 33

第七章 禁門の変 36

長州藩の派兵 36 / 伊勢での騒動 38 / 長州藩への対処 38 / 撤退しない長州藩兵 40 / 討伐の勅許 41 / 中立売門に居並ぶ長州藩兵 42 / 蛤門の戦い 43 / 唐門の戦い 44 / 容保の参内 45 / 堺町門の戦い 46 / どんどん焼け 48 / 十津川郷士の御所進入 48 / 九条河原の井上隊と久徳隊 49 / 桑名藩の戦果と被害 50 / 戦後処理 51



家紋・花押デザイン 学生ボランティア「かこ」さん

令和2年（2020）7月25日発行

著者・発行 西村 健二

